

結果の概要

1 推計患者数

調査日に全国の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」1,392.4千人、「外来」6,865.0千人である。

(1) 施設の種類の性別・年齢階級別

「入院」1,392.4千人について、施設の種類の別みると「病院」1,332.6千人、「一般診療所」59.8千人、性別にみると「男」639.7千人、「女」752.6千人、年齢階級別にみると「65歳以上」931.4千人、「75歳以上」652.3千人となっている。

「外来」6,865.0千人について、施設の種類の別みると「病院」1,727.5千人、「一般診療所」3,828.0千人、「歯科診療所」1,309.4千人、性別にみると「男」2,918.5千人、「女」3,946.4千人、年齢階級別にみると「65歳以上」3,076.8千人、「75歳以上」1,592.3千人となっている。

(表1、統計表1・2)

表1 年齢階級別にみた施設の種類の推計患者数

(単位：千人)

平成20年10月

	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一 般 診 療 所	総 数	病 院	一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所
総 数 (平成17年)	1 392.4 (1 462.8)	1 332.6 (1 391.6)	59.8 (71.2)	6 865.0 (7 092.4)	1 727.5 (1 866.4)	3 828.0 (3 948.9)	1 309.4 (1 277.2)
男	639.7	621.4	18.4	2 918.5	799.9	1 561.8	556.7
女	752.6	711.2	41.4	3 946.4	927.6	2 266.2	752.7
0 歳	11.6	11.2	0.3	64.0	15.0	49.0	-
1 ~ 4	8.4	8.4	0.1	261.6	37.5	205.0	19.1
5 ~ 9	5.6	5.5	0.1	237.0	28.9	144.4	63.7
10 ~ 14	5.8	5.7	0.1	136.1	21.7	84.4	30.1
15 ~ 19	8.0	7.8	0.3	117.3	21.2	65.6	30.6
20 ~ 24	13.0	11.9	1.1	151.5	33.2	80.2	38.0
25 ~ 29	20.5	18.2	2.4	202.1	46.3	106.0	49.9
30 ~ 34	28.0	25.2	2.8	268.8	62.2	138.2	68.3
35 ~ 39	31.4	29.8	1.6	297.1	70.3	150.7	76.1
40 ~ 44	31.6	30.7	0.8	278.5	68.2	136.5	73.8
45 ~ 49	39.5	38.6	1.0	284.7	75.0	137.4	72.3
50 ~ 54	53.4	52.1	1.4	338.0	89.5	162.8	85.8
55 ~ 59	93.5	91.4	2.1	513.9	139.5	251.9	122.4
60 ~ 64	108.3	105.6	2.7	615.6	167.9	313.5	134.3
65 ~ 69	125.8	123.0	2.8	687.3	191.3	361.3	134.7
70 ~ 74	153.2	148.4	4.8	797.2	216.9	453.7	126.6
75 ~ 79	184.6	177.5	7.2	733.4	203.1	436.3	94.0
80 ~ 84	186.0	176.3	9.7	508.6	142.6	311.5	54.4
85 ~ 89	149.5	140.1	9.5	240.6	66.3	152.5	21.9
90歳以上	132.1	123.2	9.0	109.8	28.2	71.0	10.6
不 詳	2.3	2.2	0.2	21.9	2.9	16.2	2.8
(再 掲)							
65歳以上	931.4	888.4	43.0	3 076.8	848.4	1 786.2	442.2
70歳以上	805.5	765.4	40.1	2 389.5	657.1	1 424.9	307.5
75歳以上	652.3	617.0	35.3	1 592.3	440.2	971.2	180.9

注：() 内は、平成17年10月の数値である。

施設の種別別に年次推移をみると、入院では、病院は平成8年からほぼ横ばいであったが平成20年は減少しており、一般診療所は昭和59年から減少傾向にある。外来では、病院、一般診療所ともに平成20年は減少しており、歯科診療所は平成14年から増加傾向にある。(図1、統計表1・2)

年齢階級別にみると、入院、外来ともに、「75歳以上」を除く「0～14歳」「15～34歳」「35～64歳」「65歳以上」の各年齢階級で平成20年は減少している(図2、統計表1・2)。

図1 施設の種別別にみた推計患者数の年次推移

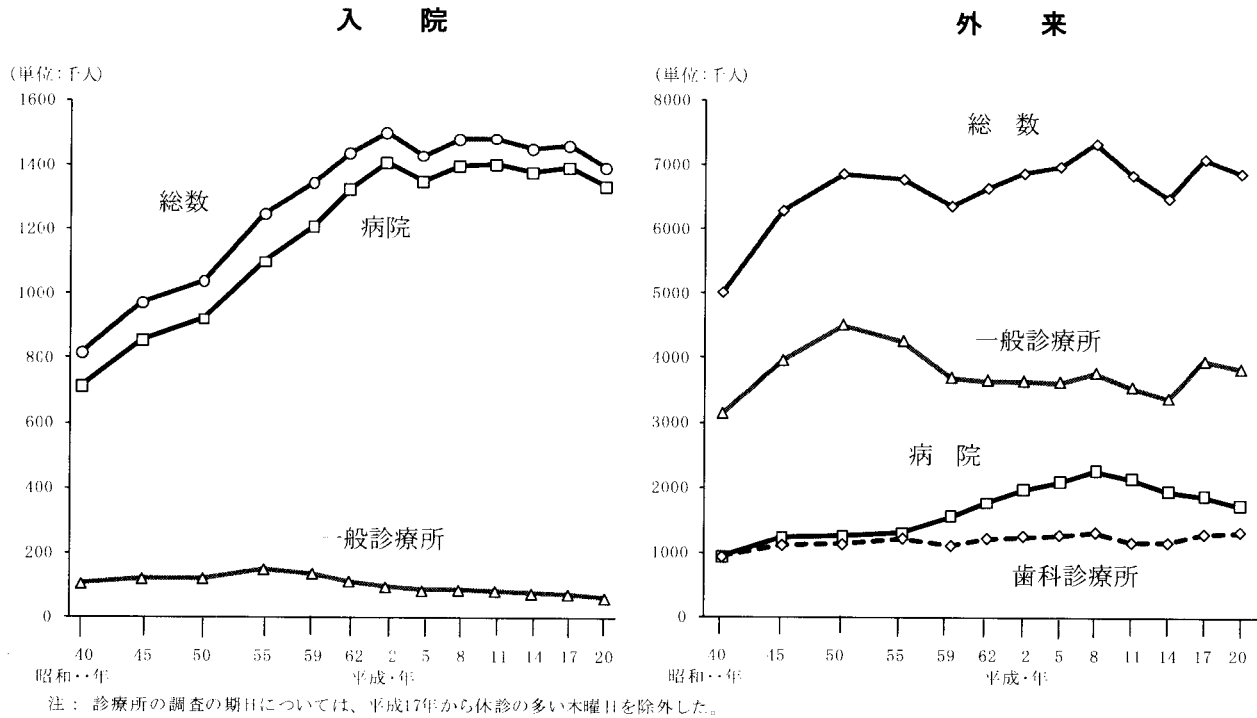
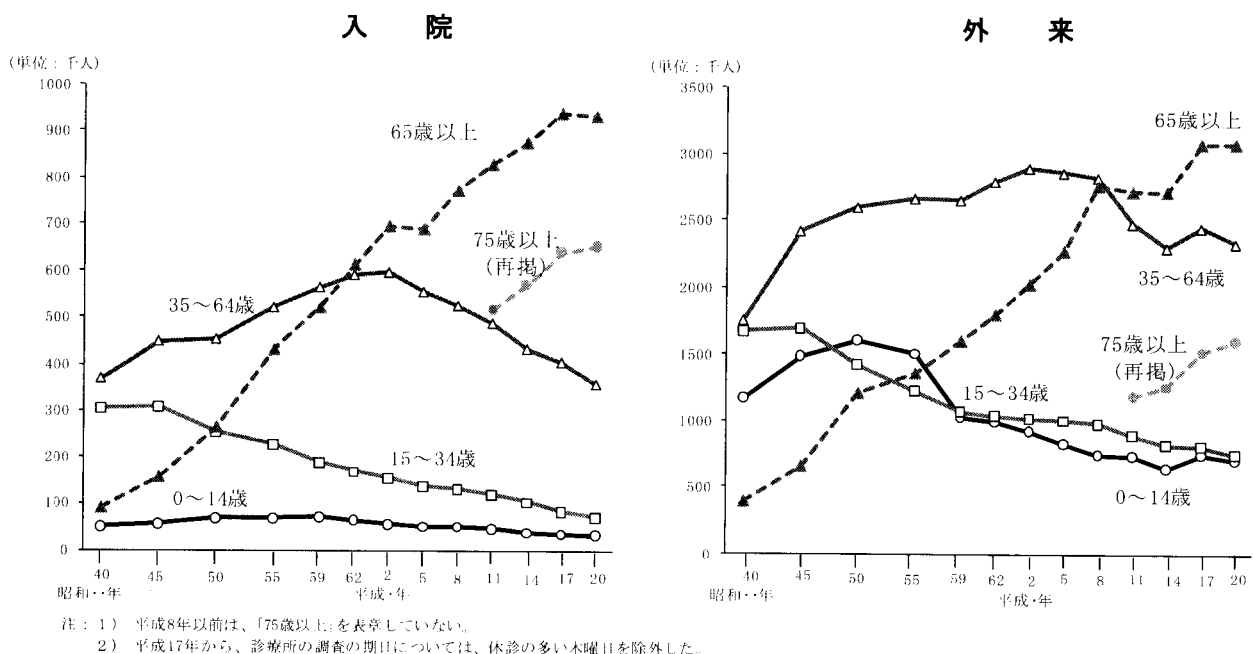


図2 年齢階級別にみた推計患者数の年次推移



(2) 傷病分類別

ア 入院患者

入院患者を傷病分類別にみると、平成17年に比べ全体的に減少傾向にあるが、多い順に「V 精神及び行動の障害」301.4千人、「IX 循環器系の疾患」280.3千人、「II 新生物」159.2千人となっている。病院では、「V 精神及び行動の障害」299.5千人、「IX 循環器系の疾患」267.0千人、「II 新生物」155.8千人の順となっている。一般診療所では、「IX 循環器系の疾患」13.3千人、「XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響」9.5千人、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」7.7千人の順となっている。(表2、統計表3・4)

表2 傷病分類別にみた施設の種別推計入院患者数

傷病分類		推計入院患者数					
		総数		病院		一般診療所	
		平成20年	平成17年	平成20年	平成17年	平成20年	平成17年
総数		1 392.4	1 462.8	1 332.6	1 391.6	59.8	71.2
I	感染症及び寄生虫症	24.6	27.2	23.9	25.9	0.6	1.3
	結核 (再掲)	4.6	6.1	4.6	6.1	0.0	0.0
	ウイルス肝炎 (再掲)	3.3	4.6	3.0	4.1	0.3	0.5
II	新生物	159.2	169.8	155.8	164.6	3.4	5.2
	胃の悪性新生物 (再掲)	17.1	18.8	16.7	18.4	0.4	0.4
	大腸の悪性新生物 (再掲)	19.6	19.4	19.1	18.9	0.5	0.5
	肝及び肝内胆管の悪性新生物 (再掲)	9.8	11.2	9.5	10.2	0.3	1.0
	気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	20.3	20.3	20.1	20.1	0.2	0.3
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.9	5.9	5.7	5.6	0.2	0.3
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	36.9	39.7	34.9	36.7	2.0	3.0
	糖尿病 (再掲)	26.2	30.3	24.7	28.0	1.5	2.4
V	精神及び行動の障害	301.4	326.2	299.5	323.3	1.9	2.9
	血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	44.4	54.0	43.3	52.6	1.1	1.5
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	187.4	198.9	187.3	198.7	0.1	0.2
VI	神経系の疾患	105.4	97.3	102.4	93.9	3.0	3.4
VII	眼及び付属器の疾患	10.3	12.7	9.4	11.6	0.9	1.0
VIII	耳及び乳様突起の疾患	2.7	3.0	2.5	2.8	0.2	0.2
IX	循環器系の疾患	280.3	318.7	267.0	302.5	13.3	16.2
	高血圧性疾患 (再掲)	8.7	11.6	6.8	9.3	2.0	2.3
	心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	58.2	60.2	55.5	57.3	2.6	2.9
	脳血管疾患 (再掲)	199.4	233.6	192.0	223.5	7.4	10.2
X	呼吸器系の疾患	83.8	78.7	80.8	74.7	3.0	4.0
	喘息 (再掲)	5.7	8.7	5.2	8.1	0.4	0.6
XI	消化器系の疾患	68.4	72.0	65.5	68.6	2.8	3.4
	菌及び歯の支持組織の疾患 (再掲)	0.8	0.9	0.8	0.9	0.0	0.0
	食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	10.0	11.7	9.3	10.9	0.7	0.8
	肝疾患 (再掲)	9.8	12.7	9.2	11.9	0.6	0.8
XII	皮膚及び皮下組織の疾患	12.3	9.5	11.9	9.1	0.4	0.4
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	68.5	68.8	60.8	60.5	7.7	8.3
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	47.3	46.2	44.0	42.2	3.3	4.0
XV	妊娠、分娩及び産後	19.4	19.0	14.8	14.4	4.6	4.6
XVI	周産期に発生した病態	6.1	6.2	6.0	6.0	0.2	0.1
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	5.7	5.8	5.7	5.7	0.1	0.1
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	18.8	23.8	17.9	22.5	0.9	1.3
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	125.6	122.5	116.1	113.5	9.5	9.1
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	9.9	9.8	8.0	7.2	1.9	2.6
	歯の補てつ (再掲)	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-

イ 外来患者

外来患者を傷病分類別にみると、多い順に「XI 消化器系の疾患」1,249.8千人、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」945.3千人、「IX 循環器系の疾患」894.8千人となっている。

病院では、「IX 循環器系の疾患」273.7千人、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」197.8千人、「II 新生物」170.7千人の順となっている。一般診療所では、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」747.5千人、「IX 循環器系の疾患」621.1千人、「X 呼吸器系の疾患」537.3千人の順となっている。(表3、統計表5・6)

表3 傷病分類別にみた施設の種別推計外来患者数

傷病分類		推計外来患者数							
		総数		病院		一般診療所		歯科診療所	
		平成20年	平成17年	平成20年	平成17年	平成20年	平成17年	平成20年	平成17年
総数		6 865.0	7 092.4	1 727.5	1 866.4	3 828.0	3 948.9	1 309.4	1 277.2
I	感染症及び寄生虫症	194.6	227.5	54.5	66.6	140.1	160.9	-	-
	結核 (再掲)	2.4	3.1	2.0	2.7	0.5	0.4	-	-
	ウイルス肝炎 (再掲)	55.3	79.4	24.8	30.2	30.5	49.3	-	-
II	新生物	218.2	204.6	170.7	161.5	47.5	43.1	-	-
	胃の悪性新生物 (再掲)	21.4	19.3	17.2	15.1	4.2	4.2	-	-
	大腸の悪性新生物 (再掲)	23.5	20.3	20.0	16.8	3.6	3.4	-	-
	肝及び肝内胆管の悪性新生物 (再掲)	7.3	8.0	5.5	5.4	1.8	2.7	-	-
	気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	14.6	12.9	12.9	10.9	1.8	2.1	-	-
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	22.6	26.4	10.7	11.1	11.9	15.3	-	-
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	360.3	381.5	132.1	139.9	228.1	241.7	-	-
	糖尿病 (再掲)	188.0	202.4	82.2	85.4	105.8	117.0	-	-
V	精神及び行動の障害	232.3	224.5	109.8	111.9	122.5	112.6	-	-
	血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	12.7	12.0	4.1	4.7	8.7	7.3	-	-
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	66.5	62.9	45.9	45.4	20.6	17.5	-	-
VI	神経系の疾患	133.0	143.2	63.8	68.8	69.2	74.5	-	-
VII	眼及び付属器の疾患	269.3	333.7	56.2	74.9	213.0	258.7	-	-
VIII	耳及び乳様突起の疾患	122.4	114.6	17.6	20.6	104.7	94.0	-	-
IX	循環器系の疾患	894.8	949.5	273.7	287.8	621.1	661.8	-	-
	高血圧性疾患 (再掲)	601.3	644.2	123.9	126.2	477.5	518.0	-	-
	心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	130.3	142.6	73.6	73.5	56.7	69.1	-	-
	脳血管疾患 (再掲)	119.9	122.9	57.4	69.2	62.5	53.7	-	-
X	呼吸器系の疾患	649.3	757.7	112.0	144.9	537.3	612.7	-	-
	喘息 (再掲)	112.9	147.1	32.1	41.6	80.8	105.5	-	-
X I	消化器系の疾患	1 249.8	1 301.4	122.4	136.4	158.7	185.2	968.7	979.9
	歯及び歯の支持組織の疾患 (再掲)	966.4	985.9	23.3	27.6	5.9	7.2	937.2	951.2
	食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	139.6	166.4	45.9	54.8	93.7	111.6	-	-
	肝疾患 (再掲)	36.2	47.9	13.9	18.8	22.3	29.1	-	-
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	252.7	266.6	50.3	57.3	202.4	209.3	-	-
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	945.3	983.1	197.8	225.2	747.5	758.0	-	-
X IV	腎尿路生殖泌尿器系の疾患	288.7	252.0	114.7	116.8	174.0	135.2	-	-
X V	妊娠、分娩及び産じょく	17.1	14.5	7.3	6.8	9.8	7.7	-	-
X VI	周産期に発生した病態	2.6	2.0	2.0	1.6	0.6	0.4	-	-
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	12.9	12.0	9.2	8.6	3.7	3.4	-	-
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	86.5	76.3	48.1	38.1	38.4	38.1	-	-
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	319.3	303.9	107.9	119.6	208.4	181.2	3.1	3.1
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	593.3	517.4	66.7	68.0	188.9	155.1	337.6	294.2
	歯の補てつ (再掲)	302.6	267.5	4.4	5.1	1.6	1.0	296.7	261.4

(3) 病床の種類別

入院患者を病床の種類別にみると、病院では、「精神病床」306.7千人、「療養病床」301.8千人、「一般病床」720.3千人、一般診療所では、「療養病床」16.3千人となっている。

これを傷病分類別にみると、病院の一般病床では、「II 新生物」146.5千人、「IX 循環器系の疾患」120.6千人、療養病床では、「IX 循環器系の疾患」144.6千人、「VI 神経系の疾患」33.0千人が多くなっている。(表4)

表4 傷病分類別にみた病床の種類別推計入院患者数

傷病分類		総数	病院					一般診療所		
			精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	療養病床(再掲)		
総数		1 392.4	1 332.6	306.7	0.0	3.8	301.8	720.3	59.8	16.3
I	感染症及び寄生虫症	24.6	23.9	0.4	0.0	3.5	1.9	18.1	0.6	0.0
	結核(再掲)	4.6	4.6	0.0	0.0	3.3	0.3	1.0	0.0	-
	ウイルス肝炎(再掲)	3.3	3.0	0.0	-	0.0	0.4	2.6	0.3	0.0
II	新生物	159.2	155.8	0.1	0.0	0.0	9.1	146.5	3.4	0.4
	胃の悪性新生物(再掲)	17.1	16.7	0.0	-	0.0	1.0	15.7	0.4	0.1
	大腸の悪性新生物(再掲)	19.6	19.1	0.0	-	0.0	1.3	17.9	0.5	0.1
	肝及び肝内胆管の悪性新生物(再掲)	9.8	9.5	0.0	-	-	0.5	9.0	0.3	0.0
	気管、気管支及び肺の悪性新生物(再掲)	20.3	20.1	0.0	0.0	0.0	0.9	19.2	0.2	0.0
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.9	5.7	0.0	0.0	-	0.6	5.0	0.2	0.0
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	36.9	34.9	0.5	-	0.0	10.9	23.5	2.0	0.6
	糖尿病(再掲)	26.2	24.7	0.1	-	0.0	9.0	15.5	1.5	0.5
V	精神及び行動の障害	301.4	299.5	274.3	0.0	0.0	18.4	6.7	1.9	1.1
	血管性及び詳細不明の認知症(再掲)	44.4	43.3	28.8	-	0.0	13.5	1.0	1.1	0.8
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(再掲)	187.4	187.3	185.3	0.0	0.0	1.4	0.7	0.1	0.0
VI	神経系の疾患	105.4	102.4	27.2	-	0.0	33.0	42.3	3.0	1.5
VII	眼及び付属器の疾患	10.3	9.4	0.0	0.0	-	0.1	9.3	0.9	0.0
VIII	耳及び乳様突起の疾患	2.7	2.5	0.0	-	-	0.1	2.4	0.2	0.0
IX	循環器系の疾患	280.3	267.0	1.7	0.0	0.1	144.6	120.6	13.3	5.8
	高血圧性疾患(再掲)	8.7	6.8	0.1	-	0.0	3.7	3.0	2.0	0.7
	心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	58.2	55.5	0.1	0.0	0.0	13.8	41.6	2.6	0.8
	脳血管疾患(再掲)	199.4	192.0	1.5	-	0.0	125.3	65.2	7.4	4.2
X	呼吸器系の疾患	83.8	80.8	0.1	0.0	0.1	15.1	65.5	3.0	0.6
	喘息(再掲)	5.7	5.2	0.0	-	0.0	0.8	4.4	0.4	0.1
X I	消化器系の疾患	68.4	65.5	0.2	0.0	0.0	5.0	60.3	2.8	0.4
	歯及び歯の支持組織の疾患(再掲)	0.8	0.8	0.0	-	-	0.0	0.7	0.0	-
	食道、胃及び十二指腸の疾患(再掲)	10.0	9.3	0.0	-	0.0	1.1	8.1	0.7	0.2
	肝疾患(再掲)	9.8	9.2	0.1	-	0.0	1.2	8.0	0.6	0.1
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	12.3	11.9	0.0	-	0.0	2.3	9.5	0.4	0.1
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	68.5	60.8	0.1	-	0.0	15.9	44.8	7.7	2.4
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	47.3	44.0	0.2	-	0.0	8.8	35.0	3.3	0.8
X V	妊娠、分娩及び産後	19.4	14.8	-	-	-	0.0	14.8	4.6	-
X VI	周産期に発生した病態	6.1	6.0	-	-	-	0.0	6.0	0.2	-
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	5.7	5.7	0.1	-	-	0.5	5.1	0.1	0.0
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	18.8	17.9	0.6	-	0.0	3.0	14.3	0.9	0.2
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	125.6	116.1	1.0	0.0	0.0	30.6	84.4	9.5	1.8
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	9.9	8.0	0.1	-	-	1.8	6.1	1.9	0.4
	菌の補てつ(再掲)	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	-	-

(4) 主傷病・副傷病の状況

主傷病と副傷病（※）を合わせた推計患者数をみると、「高血圧(症)」1,646.1千人、「精神疾患」961.1千人、「高脂血症(脂質異常症)」759.2千人、「糖尿病」742.9千人となっている（表5）。

（※）副傷病とは、主傷病以外で有していた傷病であり、本調査では、糖尿病、肥満、高脂血症、高血圧、虚血性心疾患、脳卒中、閉塞性末梢動脈疾患、大動脈疾患、慢性腎不全、精神疾患のみを把握している。

（新規）

表5 主傷病及び副傷病でみた年齢階級別推計患者数（複数回答）

（単位：千人）

平成20年10月

傷病分類	総数	(参考) 主傷病のみで みた推計患者数	男	女	0～14歳	15～34	35～64	65歳以上	70歳以上 (再掲)	75歳以上 (再掲)	
総数（入院と外来（歯科診療所を除く。）の合計）	6 947.9	6 947.9	3 001.5	3 946.3	617.2	622.5	2 120.8	3 566.0	2 887.5	2 063.8	
主傷病・副傷病（複数回答）	糖尿病	742.9	214.2	392.9	350.0	1.3	7.5	219.1	513.3	409.6	283.6
	肥満（症）	39.9	1.2	14.5	25.4	0.5	2.2	16.4	20.5	15.7	9.8
	高脂血症（脂質異常症）	759.2	118.9	283.3	475.9	0.5	7.0	240.0	509.7	401.7	272.5
	高血圧（症）	1 646.1	610.1	717.6	928.6	1.1	7.7	399.1	1 234.1	1 031.0	770.3
	虚血性心疾患	405.8	86.8	190.0	215.8	0.6	1.7	64.0	338.5	296.8	237.2
	脳卒中	463.5	295.0	210.6	252.9	0.3	1.4	63.0	397.7	356.3	293.9
	閉塞性末梢動脈疾患	108.9	10.9	58.3	50.6	0.1	0.8	23.8	83.9	70.0	52.8
	大動脈疾患（大動脈解離、大動脈瘤）	34.6	6.9	20.2	14.4	0.3	0.5	5.7	28.0	24.8	19.6
	慢性腎不全（慢性腎臓病）	213.1	151.1	123.0	90.1	0.4	3.5	75.4	133.4	105.2	76.5
	精神疾患	961.1	600.5	418.5	542.5	18.4	91.1	364.9	484.8	402.0	314.6
入院	1 392.4	1 392.4	639.7	752.6	31.4	69.6	357.6	931.4	805.5	652.3	
主傷病・副傷病（複数回答）	糖尿病	228.7	26.2	114.9	113.8	0.2	2.0	53.7	172.5	146.0	112.3
	肥満（症）	5.8	0.2	2.2	3.6	0.1	0.4	2.6	2.8	2.2	1.5
	高脂血症（脂質異常症）	111.5	0.4	48.0	63.5	0.2	1.5	33.0	76.6	63.7	48.6
	高血圧（症）	373.5	8.7	160.9	212.6	0.4	1.6	59.0	311.9	278.9	232.8
	虚血性心疾患	146.7	18.9	64.9	81.8	0.2	0.5	17.8	127.8	116.5	99.6
	脳卒中	265.1	189.7	114.3	150.8	0.2	0.6	30.7	233.0	214.0	184.6
	閉塞性末梢動脈疾患	26.3	3.3	14.1	12.2	0.0	0.1	3.6	22.5	20.1	16.4
	大動脈疾患（大動脈解離、大動脈瘤）	13.9	3.8	7.4	6.5	0.0	0.1	1.7	12.2	11.1	9.3
	慢性腎不全（慢性腎臓病）	59.9	25.8	29.9	30.0	0.1	0.4	10.3	48.8	42.9	35.2
	精神疾患	527.9	332.8	241.4	286.5	3.2	26.0	190.0	307.8	254.8	200.7
外来（歯科診療所を除く。）	5 555.5	5 555.5	2 361.8	3 193.7	585.8	552.9	1 763.2	2 634.6	2 082.0	1 411.4	
主傷病・副傷病（複数回答）	糖尿病	514.2	188.0	278.0	236.2	1.1	5.5	165.4	340.8	263.6	171.4
	肥満（症）	34.1	1.0	12.3	21.8	0.4	1.8	13.8	17.8	13.5	8.3
	高脂血症（脂質異常症）	647.7	118.5	235.4	412.4	0.4	5.5	207.0	433.1	338.0	223.9
	高血圧（症）	1 272.7	601.3	556.7	716.0	0.7	6.1	340.1	922.2	752.1	537.5
	虚血性心疾患	259.2	68.0	125.2	134.0	0.3	1.2	46.1	210.7	180.3	137.5
	脳卒中	198.4	105.3	96.3	102.1	0.1	0.7	32.3	164.7	142.3	109.3
	閉塞性末梢動脈疾患	82.6	7.6	44.2	38.4	0.1	0.7	20.2	61.4	49.9	36.4
	大動脈疾患（大動脈解離、大動脈瘤）	20.7	3.1	12.8	7.9	0.3	0.4	4.0	15.8	13.7	10.3
	慢性腎不全（慢性腎臓病）	153.2	125.2	93.1	60.1	0.3	3.0	65.0	84.5	62.3	41.2
	精神疾患	433.2	267.7	177.2	256.0	15.2	65.0	174.9	177.0	147.2	113.9

注：1）総数には、年齢不詳を含む。

2）「主傷病・副傷病（複数回答）」とは、主傷病または副傷病として各傷病を有する者をいう。

3）「精神疾患」とは、アルツハイマー病を含む認知症、精神作用物質による精神及び行動の障害、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害、神経症性障害、てんかん、その他の精神及び行動の障害をいう。（「精神遅滞」は含まれていない。）

(5) 在宅医療の状況

調査日に在宅医療を受けた推計外来患者数は98.7千人であり、これを施設の種別別にみると、「病院」11.0千人、「一般診療所」62.4千人、「歯科診療所」25.3千人となっている。

在宅医療の種別別にみると、総数では「往診」28.8千人、「訪問診療」56.8千人、「医師・歯科医師以外の訪問」13.2千人となっている。(表6)

表6 年齢階級別にみた在宅医療を受けた推計外来患者数

(単位：千人) 平成20年10月

	推計外来患者数	(総 数)				(病 院)				(一般診療所)				(歯科診療所)		
		在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師以外の訪問	在宅医療	訪問診療	歯科医師以外の訪問
総 数 (平成17年)	6 865.0 (7 092.4)	98.7 (64.8)	28.8 (24.5)	56.8 (34.5)	13.2 (5.9)	11.0 (12.6)	4.1 (5.4)	4.1 (4.7)	2.8 (2.5)	62.4 (49.4)	24.7 (19.1)	34.6 (27.2)	3.1 (3.2)	25.3 (2.8)	18.1 (2.6)	7.3 (0.2)
0～14歳	698.7	0.9	0.5	0.3	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.7	0.3	0.3	0.0	-	-	-
15～34	739.7	2.2	1.6	0.3	0.2	0.5	0.3	0.1	0.1	1.6	1.3	0.2	0.1	0.1	0.1	-
35～64	2 327.8	8.8	4.2	2.9	1.7	2.5	1.1	0.3	1.1	5.2	3.1	1.6	0.5	1.0	0.9	0.1
65歳以上	3 076.8	86.6	22.3	53.1	11.2	7.7	2.5	3.7	1.6	54.7	19.8	32.4	2.4	24.2	17.0	7.2
(再掲)																
70歳以上	2 389.5	82.7	20.7	51.4	10.5	7.1	2.2	3.5	1.4	52.3	18.6	31.4	2.3	23.3	16.4	6.9
75歳以上	1 592.3	76.3	18.7	48.3	9.2	6.4	1.8	3.3	1.2	47.8	16.9	29.0	2.0	22.1	16.0	6.1

- 注：1) 総数には、年齢不詳を含む。
 2) 「往診」とは、患者（介護老人保健施設等を含む）の求めに応じて患者に赴いて診療するものをいう。
 3) 「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患者（介護老人保健施設等を含む）に赴いて診療を行うものをいう。
 4) 「医師・歯科医師以外の訪問」「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。
 5) () 内は、平成17年10月の数値である。

(6) 救急の状況

救急患者数は、「入院」196.4千人、「外来」19.4千人となっている。これを施設の種別別にみると、入院では、「病院」193.2千人、「一般診療所」3.1千人、外来では、「病院」17.3千人、「一般診療所」2.1千人となっている。救急の状況別にみると、入院では、「救急車により搬送」120.5千人、「救急外来を受診」98.1千人、「診療時間外の受診」78.7千人、外来では、「救急車により搬送」5.4千人、「救急外来を受診」10.8千人、「診療時間外の受診」11.5千人となっている。(表7)

表7 救急の状況別にみた推計患者数（複数回答）

(単位：千人) 平成20年10月

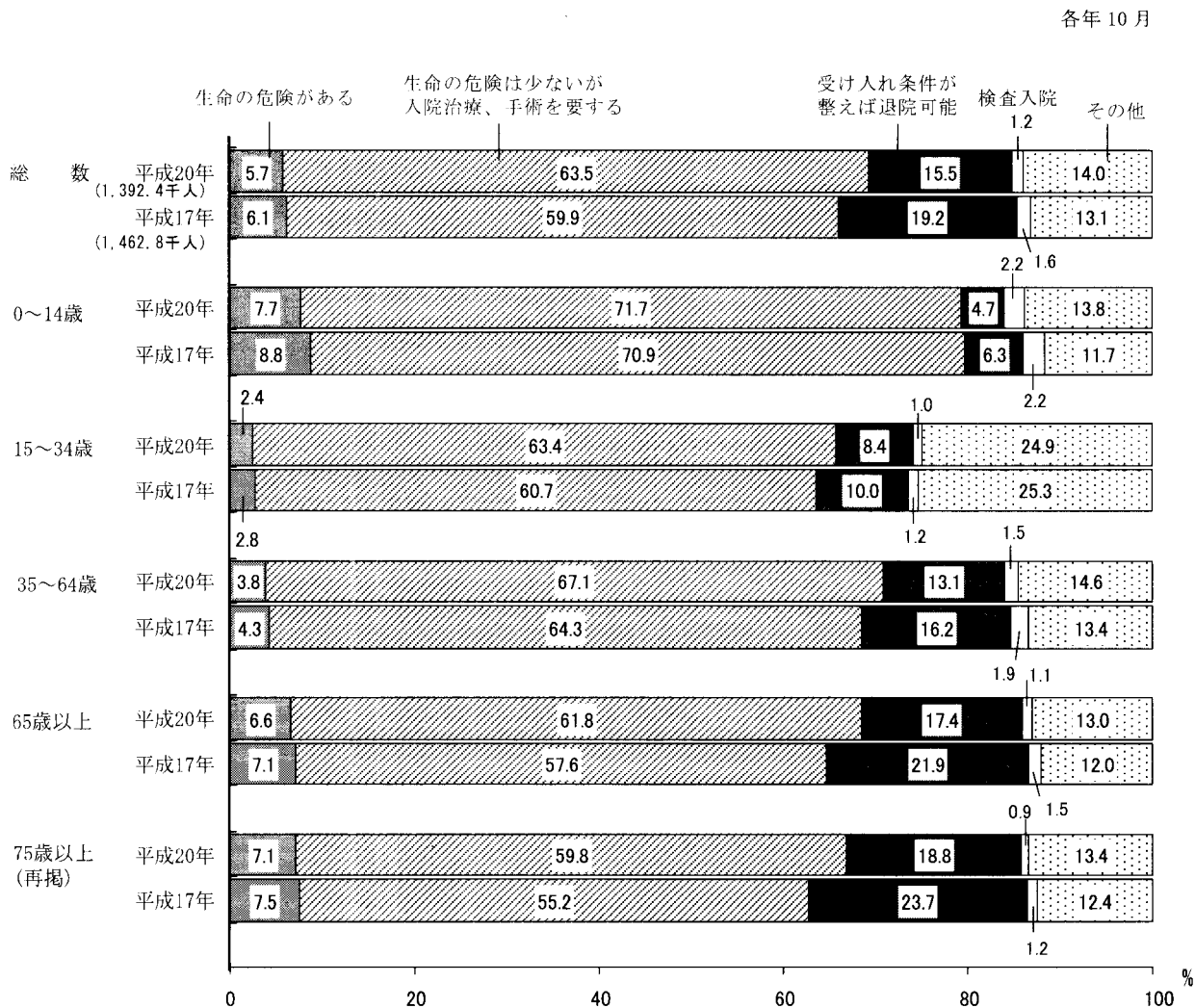
	総 数 推計患者数 (千人)		救 急 (複数回答)								救急以外	
			総 数 (千人)		救急車に より搬送		救急外来 を受診		診療時間外 の受診			
			構成割合	構成割合	構成割合	構成割合	構成割合	構成割合				
入 院 (平成17年)	1 392.4 (1 462.8)	100.0% (100.0%)	196.4 (196.7)	14.1% (13.4%)	120.5 (122.3)	8.7% (8.4%)	98.1 (91.2)	7.0% (6.2%)	78.7 (89.1)	5.7% (6.1%)	1 196.0 (1 266.1)	85.9% (86.6%)
病 院 一般診療所	1 332.6 59.8	100.0% 100.0%	193.2 3.1	14.5% 5.2%	119.1 1.4	8.9% 2.3%	98.0 0.1	7.4% 0.2%	77.0 1.8	5.8% 2.9%	1 139.4 56.6	85.5% 94.8%
外 来 (平成17年)	5 555.5 (5 815.2)	100.0% (100.0%)	19.4 (57.4)	0.3% (1.0%)	5.4 (16.8)	0.1% (0.3%)	10.8 (28.9)	0.2% (0.5%)	11.5 (35.2)	0.2% (0.6%)	5 536.1 (5 757.8)	99.7% (99.0%)
病 院 一般診療所	1 727.5 3 828.0	100.0% 100.0%	17.3 2.1	1.0% 0.1%	5.0 0.4	0.3% 0.0%	10.5 0.3	0.6% 0.0%	9.9 1.6	0.6% 0.0%	1 710.2 3 825.9	99.0% 99.9%

- 注：1) 外来には、歯科診療所の推計患者数は含まれていない。
 2) 「救急車により搬送」とは、救急車で搬送され受診したものをいう。
 3) 「救急外来を受診」とは、救急外来窓口を経由して受診したものをいう。
 4) 「診療時間外の受診」とは、医療施設が表示する診療時間外に受診したものをいう。
 5) () 内は、平成17年10月の数値である。

(7) 入院（重症度等）の状況

入院（重症度等）の状況を見ると、「生命の危険がある」5.7%、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」63.5%、「受け入れ条件が整えば退院可能」15.5%、「検査入院」1.2%となっている。「受け入れ条件が整えば退院可能」は年齢階級が上がるに従い多くなっているが、いずれの年齢階級でも平成17年より少なくなっている。（図3）

図3 年齢階級別にみた入院（重症度等）の状況別推計入院患者数の構成割合



注：1) 「生命の危険がある」とは、生命の危険がある重篤な患者をいう。
 2) 「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」には、退院が決定している患者を含む。
 3) 「受け入れ条件が整えば退院可能」とは、退院は決まっていないが退院可能な状態にある患者をいう。
 4) 「検査入院」とは、検査のために入院した患者をいい、健康な者に対する一般的検査のための入院患者を含む。
 5) 「その他」とは、上記以外の場合の入院患者をいう。
 6) () 内は、推計入院患者数である。

2 受療率

全国の受療率（人口10万対）は、「入院」1,090、「外来」5,376である。

(1) 性・年齢階級別

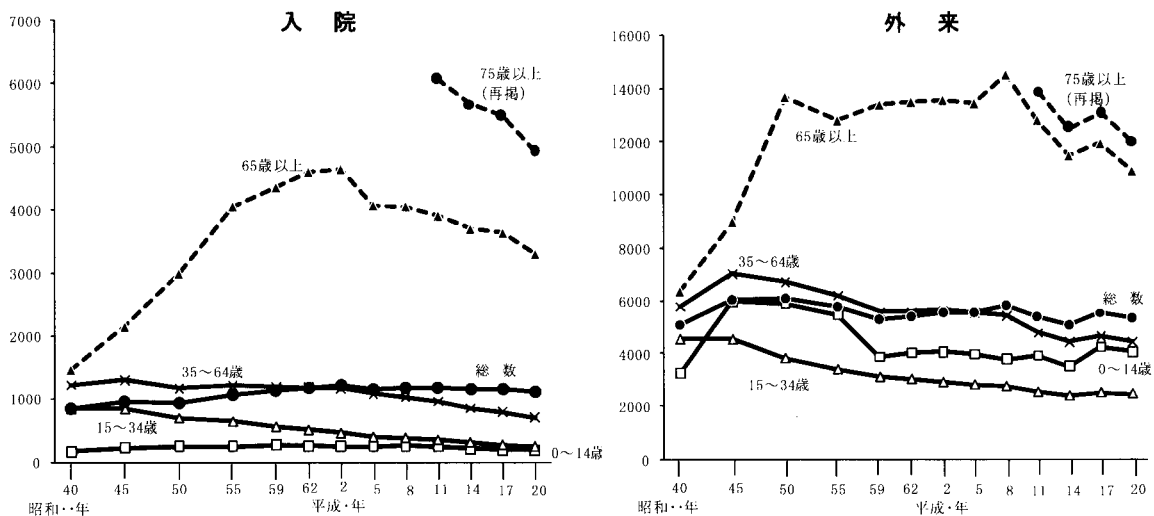
性別にみると、入院では「男」1,028、「女」1,150となっており、外来では「男」4,688、「女」6,031となっている。年齢階級別にみると、平成17年に比べ全体的に減少しているが、入院では「5～9歳」及び「10～14歳」がそれぞれ97と最も低く、年齢階級が上がるほど高くなっている。外来では「15～19歳」が1,906と最も低く、「75～79歳」が12,855と最も高くなっている。（表8、図4、統計表8）

表8 性・年齢階級別にみた受療率（人口10万対）

	入 院				外 来			
	総 数		男	女	総 数		男	女
	平成20年	平成17年	平成20年		平成20年	平成17年	平成20年	
総 数	1 090	1 145	1 028	1 150	5 376	5 551	4 688	6 031
0 歳	1 052	1 039	1 108	994	5 814	6 276	6 027	5 590
1 ～ 4	195	201	214	176	6 077	6 477	6 212	5 936
5 ～ 9	97	113	108	85	4 096	4 030	4 212	3 973
10 ～ 14	97	110	106	88	2 275	2 390	2 389	2 155
15 ～ 19	131	133	138	123	1 906	1 909	1 727	2 094
20 ～ 24	183	212	161	206	2 132	2 315	1 516	2 782
25 ～ 29	269	298	199	343	2 649	2 706	1 816	3 516
30 ～ 34	311	345	236	389	2 987	2 918	2 127	3 875
35 ～ 39	326	375	316	337	3 092	3 123	2 387	3 813
40 ～ 44	375	436	429	321	3 313	3 517	2 715	3 920
45 ～ 49	508	570	587	428	3 659	3 669	3 145	4 178
50 ～ 54	683	807	808	558	4 322	4 486	3 726	4 916
55 ～ 59	950	1 036	1 158	747	5 224	5 535	4 615	5 820
60 ～ 64	1 209	1 344	1 475	955	6 872	7 383	6 331	7 388
65 ～ 69	1 565	1 772	1 865	1 291	8 548	9 370	8 031	9 024
70 ～ 74	2 202	2 501	2 526	1 924	11 458	12 846	10 826	12 001
75 ～ 79	3 236	3 521	3 561	2 987	12 855	14 060	12 325	13 256
80 ～ 84	4 583	5 185	4 723	4 495	12 531	13 664	12 584	12 497
85 ～ 89	6 879	7 844	6 508	7 036	11 067	11 693	11 455	10 903
90 歳以上	10 308	12 000	8 958	10 747	8 562	8 879	10 013	8 149
(再 掲)								
65 歳以上	3 301	3 639	3 186	3 387	10 904	11 948	10 484	11 218
70 歳以上	3 992	4 400	3 806	4 121	11 843	12 998	11 635	11 987
75 歳以上	4 935	5 487	4 630	5 120	12 045	13 086	12 156	11 981

注：総数には、年齢不詳を含む。

図4 年齢階級別にみた受療率（人口10万対）の年次推移



注：1) 平成8年以前は、「75歳以上」を表章していない。
2) 平成17年から、診療所の調査の期日については、休診の多い木曜日を除外した。

(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、高い順に入院では、「V 精神及び行動の障害」236、「IX 循環器系の疾患」219、「II 新生物」125 となっており、外来では、「XI 消化器系の疾患」979、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」740、「IX 循環器系の疾患」701 となっている（表9、統計表9・10）。

表9 傷病分類別にみた受療率（人口10万対）

各年10月

傷病分類	入院				外来			
	総数		男	女	総数		男	女
	平成20年	平成17年	平成20年		平成20年	平成17年	平成20年	
総数	1 090	1 145	1 028	1 150	5 376	5 551	4 688	6 031
I 感染症及び寄生虫症	19	21	21	18	152	178	140	165
結核 (再掲)	4	5	5	3	2	2	2	2
ウイルス肝炎 (再掲)	3	4	3	2	43	62	43	43
E 新生物	125	133	144	106	171	160	161	180
胃の悪性新生物 (再掲)	13	15	18	9	17	15	23	11
大腸の悪性新生物 (再掲)	15	15	18	13	18	16	22	15
肝及び肝内胆管の悪性新生物 (再掲)	8	9	11	5	6	6	7	4
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	16	16	22	10	11	10	15	8
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	5	4	5	18	21	10	25
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	29	31	26	31	282	299	243	320
糖尿病 (再掲)	20	24	20	21	147	158	163	132
V 精神及び行動の障害	236	255	240	232	182	176	163	200
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	35	42	24	45	10	9	5	15
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	147	156	158	136	52	49	56	48
VI 神経系の疾患	83	76	71	94	104	112	91	116
VII 眼及び付属器の疾患	8	10	7	9	211	261	156	263
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	2	2	2	96	90	87	104
IX 循環器系の疾患	219	249	193	244	701	743	625	773
高血圧性疾患 (再掲)	7	9	4	10	471	504	383	555
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	46	47	42	49	102	112	109	96
脳血管疾患 (再掲)	156	183	136	175	94	96	95	93
X 呼吸器系の疾患	66	62	73	59	508	593	493	523
喘息 (再掲)	4	7	4	5	88	115	90	86
X I 消化器系の疾患	54	56	60	48	979	1 019	866	1 086
歯及び歯の支持組織の疾患 (再掲)	1	1	1	1	757	772	666	844
食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	8	9	8	7	109	130	91	127
肝疾患 (再掲)	8	10	9	7	28	37	32	25
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	10	7	9	10	198	209	179	216
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	54	54	36	70	740	769	560	912
X IV 腎尿路生殖生殖器系の疾患	37	36	37	37	226	197	216	235
X V 妊娠、分娩及び産じょく	15	15	・	30	13	11	・	26
X VI 周産期に発生した病態	5	5	5	4	2	2	2	2
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	5	5	5	4	10	9	10	10
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	15	19	13	17	68	60	56	79
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	98	96	78	118	250	238	258	243
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	8	4	11	465	405	373	552
歯の補てつ (再掲)	0	0	0	0	237	209	210	263

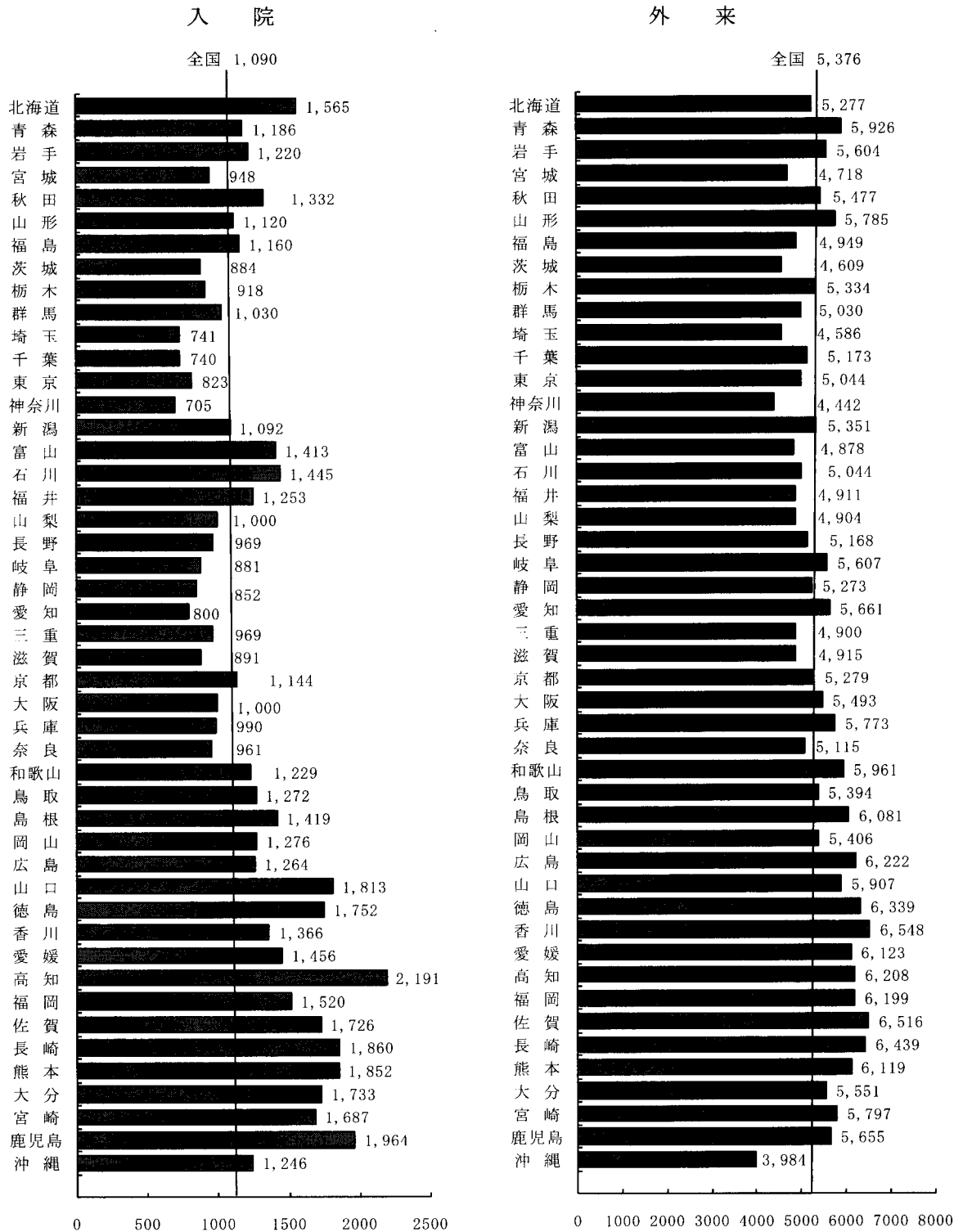
(3) 都道府県別

都道府県（患者住所地）別にみると、入院では、「高知」が 2,191 と最も高く、次いで「鹿児島」1,964、「長崎」1,860 となっている。また、「神奈川」が 705 と最も低く、次いで「千葉」740、「埼玉」741 となっている。

外来では、「香川」が 6,548 と最も高く、次いで「佐賀」6,516、「長崎」6,439 となっている。また、「沖縄」が 3,984 と最も低く、次いで「神奈川」4,442、「埼玉」4,586 となっている。（図 5）

図 5 都道府県（患者住所地）別にみた受療率（人口 10 万対）

平成 20 年 10 月



注：都道府県別受療率は、患者の住所地別に算出したものである。

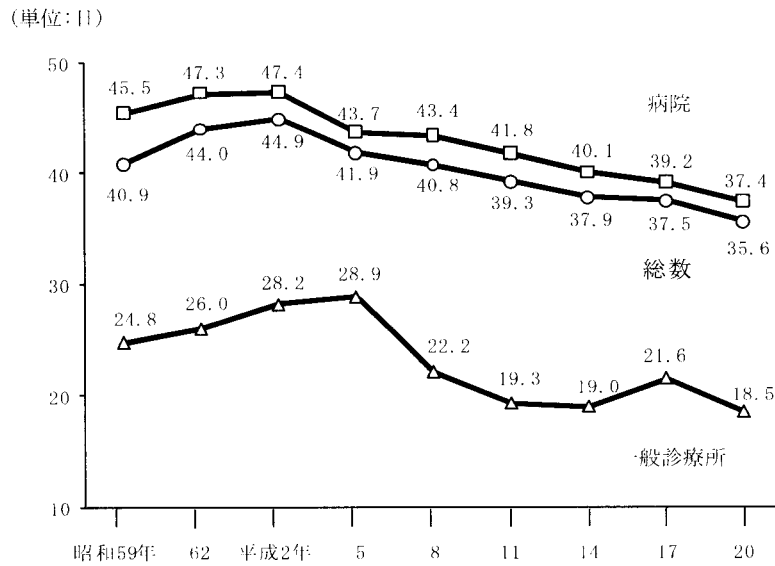
3 退院患者の平均在院日数等

(1) 施設の種類・年齢階級別

平成20年9月中に退院した推計患者について、在院日数の平均である平均在院日数を施設の種別にみると、「病院」37.4日、「一般診療所」18.5日となっており、平成17年に比べ「病院」1.8日、「一般診療所」3.1日短くなっている（図6）。

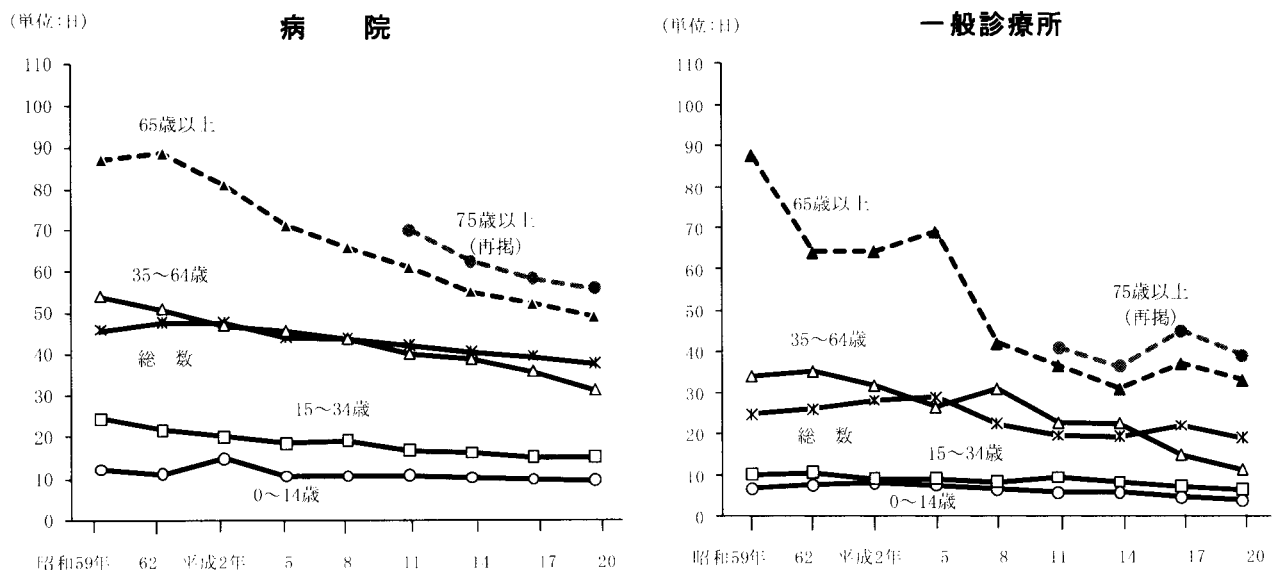
年齢階級別にみると、年齢階級が上がるに従い退院患者の平均在院日数は長くなっているが、いずれの年齢階級においても年次推移でみると全体的に短くなる傾向にある。（図7、統計表11）

図6 施設の種別に応じた退院患者の平均在院日数の年次推移



注：1) 各年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。
2) 診療所の調査の期日については、平成17年から休診の多い木曜日を除外した。

図7 年齢階級別にみた退院患者の平均在院日数の年次推移



注：1) 各年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。
2) 平成8年以前は、「75歳以上」を表章していない。
3) 診療所の調査の期日については、平成17年から休診の多い木曜日を除外した。

(2) 傷病分類別

退院患者の平均在院日数を傷病分類別にみると、長い順に「V 精神及び行動の障害」290.6日、「VI 神経系の疾患」74.1日、「IX 循環器系の疾患」52.7日となっている（表10、統計表12）。

表10 傷病分類別にみた年齢階級別退院患者の平均在院日数

(単位：日)

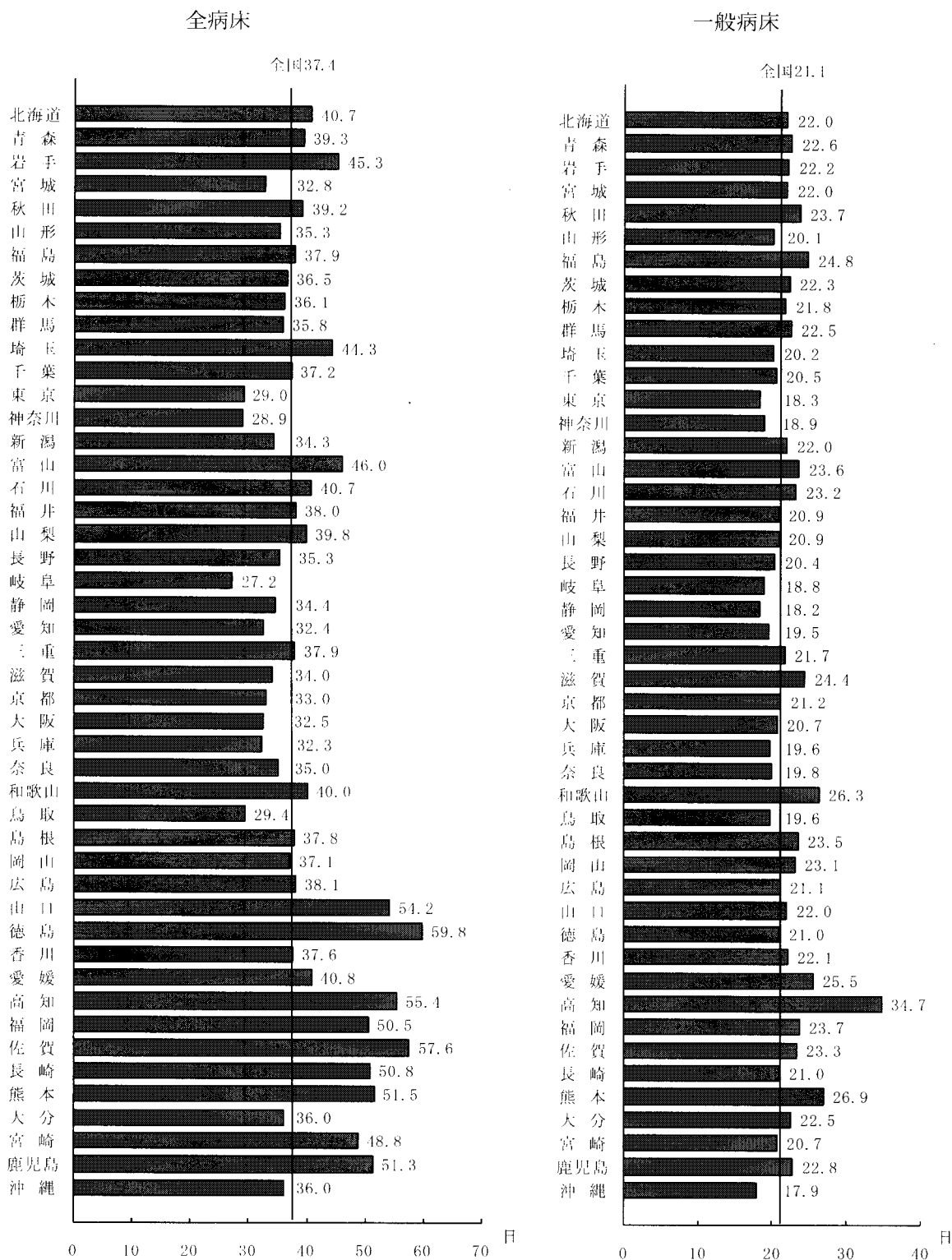
傷病分類	総数	男	女	0～14歳	15～34	35～64	65歳以上	70歳以上 (再掲)	75歳以上 (再掲)
総数	35.6	34.3	36.7	8.9	13.0	29.5	47.7	50.2	54.2
I 感染症及び寄生虫症	22.7	23.7	21.6	7.1	8.1	18.5	35.7	38.1	42.3
結核 (再掲)	60.3	64.8	52.4	10.6	37.9	60.3	63.8	63.0	64.8
ウイルス肝炎 (再掲)	16.9	17.2	16.6	8.1	12.3	13.8	23.7	31.0	39.9
II 新生物	22.4	22.7	22.1	20.8	15.1	17.5	25.9	27.7	30.4
胃の悪性新生物 (再掲)	26.8	24.1	32.9	20.5	19.1	21.2	29.2	31.6	35.9
大腸の悪性新生物 (再掲)	19.2	18.4	20.4	5.2	13.3	14.8	21.7	23.5	26.5
肝及び肝内胆管の悪性新生物 (再掲)	22.4	20.7	26.2	41.5	16.4	17.9	23.7	25.0	27.0
気管、気管支及び肺の悪性新生物 (再掲)	27.2	26.3	29.2	25.6	12.3	23.5	28.8	30.2	33.6
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	25.1	22.9	26.7	13.0	11.8	22.9	28.4	29.2	31.1
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	32.0	28.5	35.8	6.8	12.0	20.7	42.1	44.4	45.6
糖尿病 (再掲)	38.6	32.0	47.1	19.0	14.8	21.7	53.4	59.6	65.5
V 精神及び行動の障害	290.6	340.1	249.9	33.2	66.2	265.2	438.5	415.8	382.1
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	327.7	251.9	379.6	-	-	543.4	321.2	323.8	324.8
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	543.4	654.9	443.0	52.3	103.8	440.5	231.6	353.5	400.1
VI 神経系の疾患	74.1	61.2	89.6	20.6	43.6	50.8	102.6	109.9	117.4
VII 眼及び付属器の疾患	7.4	7.2	7.5	6.2	9.1	8.4	7.1	7.3	6.8
VIII 耳及び乳突突起の疾患	10.2	9.9	10.4	5.2	9.0	10.5	11.3	11.8	13.2
IX 循環器系の疾患	52.7	40.1	68.5	12.2	11.8	25.4	63.7	69.6	78.8
高血圧性疾患 (再掲)	45.8	25.5	56.9	24.9	9.4	18.7	52.4	55.7	59.4
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	24.2	16.7	35.3	12.7	13.0	11.2	29.0	32.8	38.2
脳血管疾患 (再掲)	104.7	85.3	125.8	23.2	29.8	57.6	118.4	125.1	136.3
X 呼吸器系の疾患	27.3	24.4	31.2	5.3	9.0	15.1	42.9	44.2	45.7
喘息 (再掲)	12.1	10.2	14.4	4.6	15.5	13.3	33.7	36.8	41.4
X I 消化器系の疾患	14.6	13.8	15.8	5.9	8.7	11.9	18.2	19.5	21.4
菌及び菌の支持組織の疾患 (再掲)	5.5	5.6	5.4	7.4	5.3	4.6	6.6	7.9	7.2
食道、胃及び十二指腸の疾患 (再掲)	19.6	19.7	19.5	9.7	19.8	15.9	21.9	23.3	23.9
肝疾患 (再掲)	29.8	27.6	33.2	12.7	14.3	22.2	37.8	41.4	42.7
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	26.1	23.3	29.0	6.8	9.3	18.4	36.0	37.6	39.5
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	36.0	30.1	40.1	14.1	17.0	26.0	45.1	48.3	53.9
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	24.2	23.4	25.1	9.9	9.4	13.2	34.8	37.4	40.9
X V 妊娠、分娩及び産じよく	8.0	-	8.0	15.5	8.0	8.1	-	-	-
X VI 周産期に発生した病態	10.8	10.9	10.8	10.8	-	-	-	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	19.9	20.0	19.7	14.4	24.6	41.9	22.6	23.1	25.9
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.6	19.0	21.8	7.0	8.8	15.1	26.2	27.8	30.0
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	34.8	28.3	40.6	6.7	14.3	23.9	48.6	50.6	53.1
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	9.1	7.3	10.0	7.6	7.2	4.5	20.2	23.4	23.6
歯の補てつ (再掲)	2.7	2.3	3.0	-	3.5	2.6	2.8	3.0	3.7

注：1) 平成20年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。
2) 総数には、年齢不詳を含む。

(3) 都道府県別

病院の退院患者の平均在院日数を都道府県（施設所在地）別にみると、「徳島」が 59.8 日と最も長く、「岐阜」が 27.2 日と最も短くなっている。一般病床では、「高知」が 34.7 日と最も長く、「沖縄」が 17.9 日と最も短くなっている。（図 8）

図 8 都道府県（施設所在地）別にみた病院の退院患者の平均在院日数



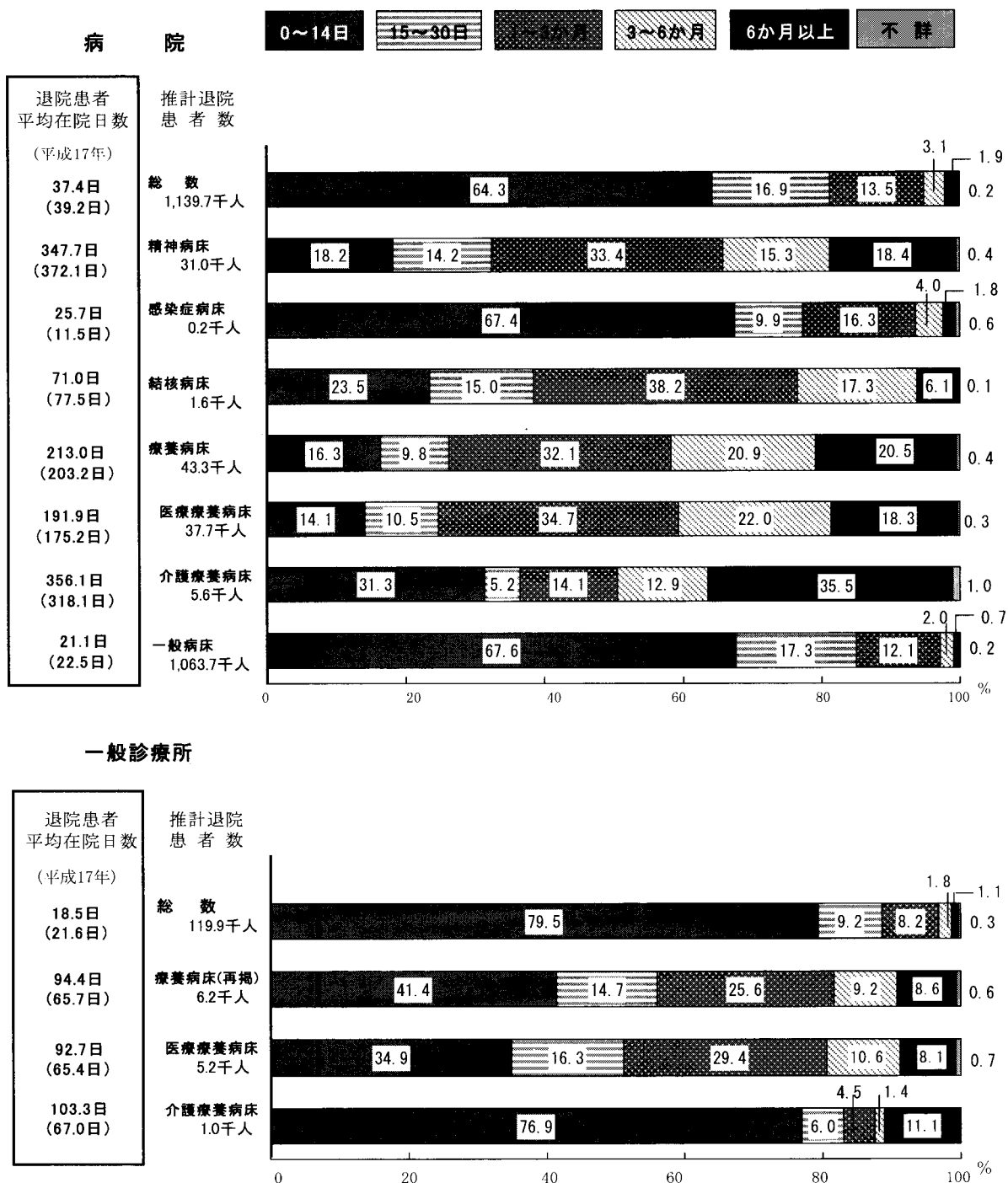
注：平成 20 年 9 月 1 日～30 日に退院した者を対象としたものである。

(4) 病床の種類別

退院患者の在院期間別に推計退院患者数の構成割合をみると、病院は「0～14日」が64.3%、「15～30日」16.9%、一般診療所は「0～14日」が79.5%、「15～30日」9.2%となっている。

また、平均在院日数をみると、平成17年に比べ病院、一般診療所ともに減少しているが、病床の種類別では、感染症病床、療養病床は増加している。(図9)

図9 病床の種類別にみた在院期間別の推計退院患者数の構成割合

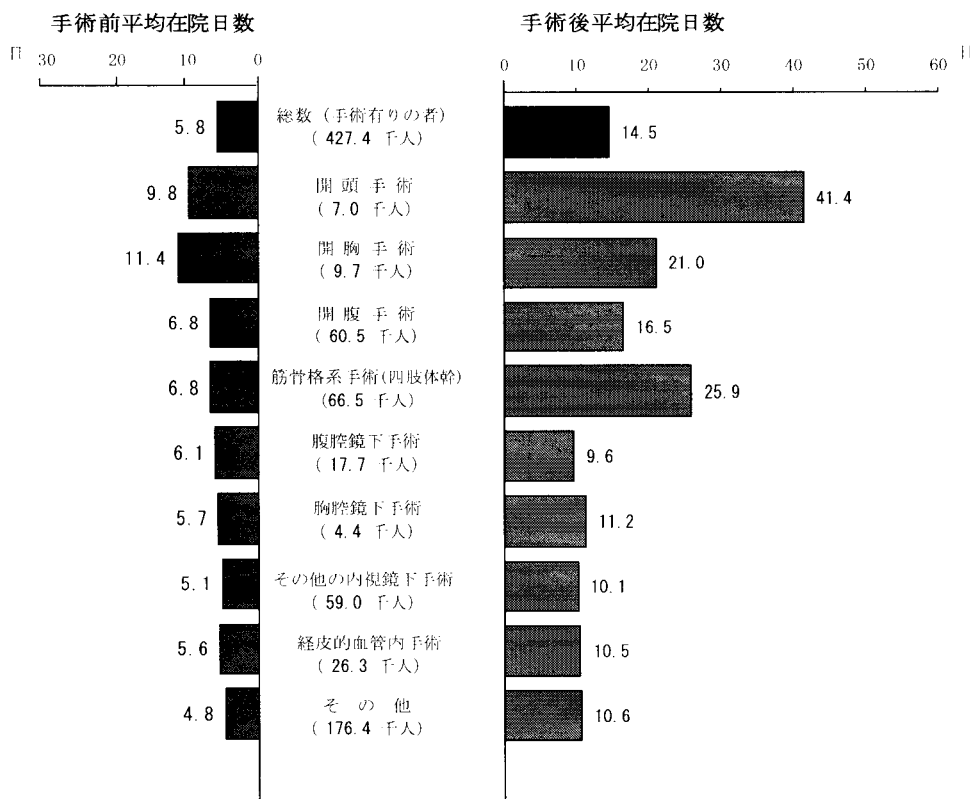


注：1) 各年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。
 2) 病床の種類は退院時のものである。
 3) ()内は、平成17年の数値である。

(5) 手術前平均在院日数・手術後平均在院日数

平成20年9月中に退院した患者のうち手術有りの者についてみると、手術前平均在院日数は5.8日であり、「開胸手術」11.4日が最も長く、「その他の内視鏡下手術」5.1日が最も短くなっている。手術後平均在院日数は14.5日であり、「開頭手術」41.4日が最も長く、「腹腔鏡下手術」9.6日が最も短くなっている。(図10)

図10 手術名別にみた手術前平均在院日数・手術後平均在院日数

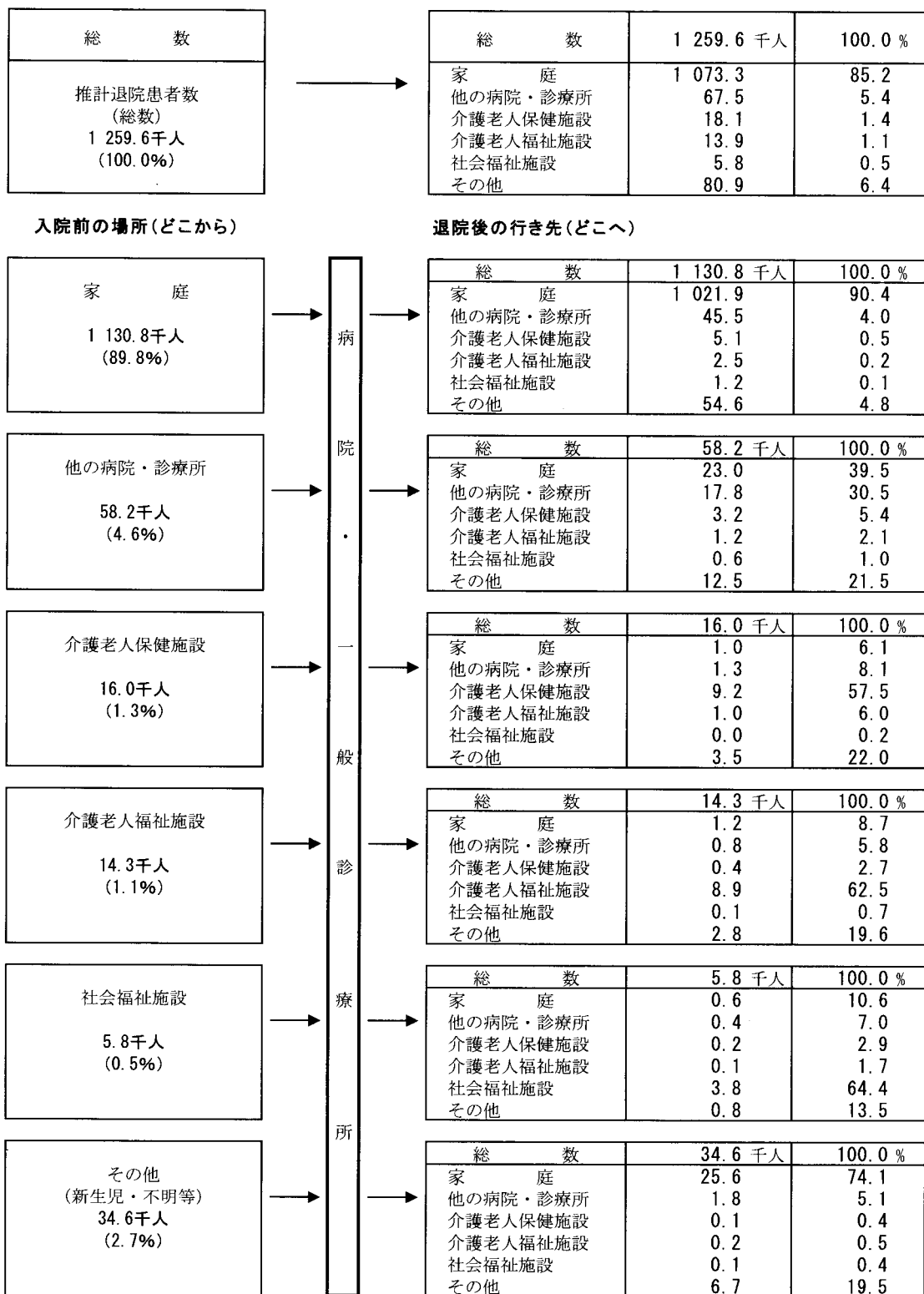


- 注：1) 平成20年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。
- 2) 「開頭手術」とは、頭蓋骨を広範囲に開窓する方法により行われる外科手術をいう。
- 3) 「開胸手術」とは、胸壁を切開し胸腔に達する方法により行われる外科手術をいう。
- 4) 「開腹手術」とは、腹壁を切開し腹腔に達する方法により行われる外科手術をいう。ただし、開胸開腹手術については開胸手術としている。
- 5) 「筋骨格系手術」とは、四肢体幹を切開し、筋、腱、関節、骨、神経に達する方法により行われる外科手術をいう。
- 6) 「腹腔鏡下手術」とは、腹腔鏡を用いた外科手術をいう(腹腔鏡下胆嚢摘除術、腹腔鏡下婦人科手術等)。
- 7) 「胸腔鏡下手術」とは、胸腔鏡を用いた外科手術をいう(胸腔鏡下肺切除術、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術等)。
- 8) 「その他の内視鏡下手術」とは、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術以外の内視鏡、ファイバースコープを用いた外科手術をいう。
- 9) 「経皮的血管内手術」とは、不安定狭心症や閉塞性動脈硬化症に対してカテーテルを用いて行う血管内治療をいう。
- 10) 「その他」とは、上記以外の外科手術をいう。

4 入院前の場所・退院後の行き先

入院前の場所についてみると、「家庭」が1,130.8千人で推計退院患者の89.8%となっている。また、退院後の行き先についてみると、「家庭」が85.2%となっている。(図11)

図11 入院前の場所・退院後の行き先別推計退院患者数・構成割合



注：1) 平成20年9月1日～30日に退院した者を対象としたものである。

2) 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療も含む。

3) 退院後の行き先における「その他」とは、退院後の行き先が特定できない者で、死亡・不明等も含む。

5 主要な傷病の総患者数

主要な傷病についての総患者数は、「高血圧性疾患」7,967千人、「歯及び歯の支持組織の疾患」6,002千人、「糖尿病」2,371千人、「悪性新生物」1,518千人、「脳血管疾患」1,339千人、「白内障」917千人となっている（表11、統計表13）。

表11 主要な傷病の総患者数

(単位：千人) 各年10月

	総 数		男		女	
	平成20年	平成17年	平成20年	平成17年	平成20年	平成17年
結 核	27	39	16	20	12	18
ウイルス肝炎	313	410	150	208	163	202
悪性新生物	1 518	1 423	837	792	680	630
胃の悪性新生物	213	208	141	135	72	73
大腸の悪性新生物	235	214	135	115	101	99
肝及び肝内胆管の悪性新生物	66	68	41	46	25	21
気管、気管支及び肺の悪性新生物	131	123	83	79	48	44
乳房の悪性新生物	179	156	2	2	177	154
糖 尿 病	2 371	2 469	1 312	1 323	1 061	1 147
血管性及び詳細不明の認知症	143	145	38	46	105	99
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	795	757	386	362	410	396
パーキンソン病	139	145	59	64	80	81
アルツハイマー病	240	176	67	47	173	128
白 内 障	917	1 288	285	377	635	913
中 耳 炎	297	221	145	110	152	111
高血圧性疾患	7 967	7 809	3 340	3 126	4 643	4 691
虚血性心疾患	808	863	464	461	348	403
脳血管疾患	1 339	1 365	650	666	689	699
喘 息	888	1 092	438	550	451	542
歯及び歯の支持組織の疾患	6 002	5 664	2 470	2 384	3 532	3 280
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	520	632	274	336	247	297
肝 疾 患	247	312	132	180	115	132
アトピー性皮膚炎	349	384	172	187	178	197
関節リウマチ	336	317	72	64	264	253
前立腺肥大(症)	442	459	442	459	.	.

注：1) 総患者数は、表章単位ごとの平均診療間隔を用いて算出するため、男と女の合計が総数に合わない場合がある。

2) 総患者数は、主傷病をもとに算出している。

※総患者数（傷病別推計）とは

総患者数とは、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。

$$\text{総患者数} = \text{入院患者数} + \text{初診外来患者数} + \text{再来外来患者数} \times \text{平均診療間隔} \times \text{調整係数}(6/7)$$

